

SAAO 発, SL9 A 核木星表面衝突を観測

木星表面への一連の SL9 彗星核衝突の最初を飾る, A 核の衝突により起こった「きのこ雲」が立ち上がり, そして消えてゆく様子が日本の東京大学, 国立天文台そして南アフリカ天文台の共同開発による近赤外線カメラにより捕らえられた。以下に観測時のエピソードを簡単にレポートする。

「アレッ? なにか木星の縁に見えるぞ」

1994 年 7 月 16 日, 南ア時間 (UT+2 時間) 22 時 18 分, すでに SL9 の A 核の衝突予測時刻を 20 分以上も過ぎていた。南アフリカ天文台 (SAAO) サザerland 観測所にある 75 cm 望遠鏡に取り付けられた, SAAO—東京大学—国立天文台の共同開発による近赤外線カメラのモニターに写し出された木星の縁に当たるところが, かすかに輝いているのに気づいた。さっそく隣にある 1.0 m 望遠鏡ドームに設けられたプレスルームに電話をする。BBC, CNN, ロイター, AFP など, 30 人以上もの報道関係者がそこに詰っていた。

「今の見た!」と聞くと, 「何を?」と, プレス担当の天文学者デブ・レーニーが答える。「木星の縁に何か明るいものが見えてきたよ」「ああ, それは大赤班がちょうど縁のところから見えてきたところだ。可視光で観測している 1.0 m 望遠鏡でも見えて, プレスのみんなが騒いだけど, あまり興奮しないようにと言ったところだ」「エッ! そんなはずは・・・」信じられないけれど, そこは専門家ではない悲しさ。実は木星を観測するのは初めてだったのだ。「なんだ, つまらない」騒いで, いい恥をかくところだった。と思いながら, とにかく観測は自動的につづけることにして階下にあるキッチンへ行ってお茶をいれ一服する。

約 10 分後に戻ってみると, まだかすかに見えていた明るい点がだんだんと消えていった。大赤班なら消えるはずはない, やはり何かが見えていた

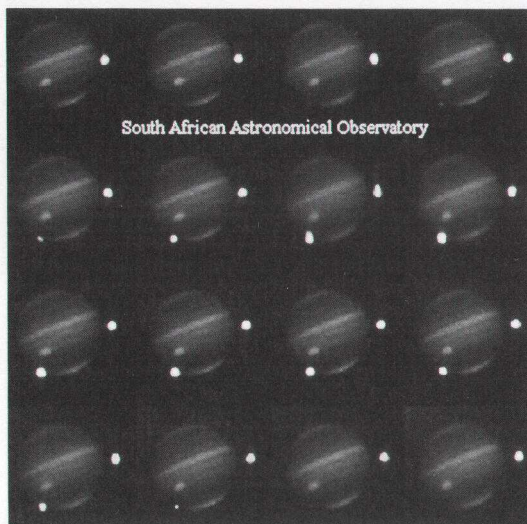


写真 1 SL9 A 核の木星表面衝突により発生した「きのこ雲」が立ち上がり消えてゆくところを近赤外線 K バンド (2.2 μ m) で捕らえた 16 枚組写真。最初の写真 (最下段石) は 20:17UT 撮影, 30 秒露出の写真を 1 分間隔で並べてある。最後 (最上段左) の写真は 20:32UT 撮影。右側に見えるのは木星の衛星イオ, 大赤班も木星表面左下側に見える。

のだ。観測終了後にデータを処理して調べてみると, 確かに A 核衝突によると考えられる“きのこ雲”が発生して消えてゆく様子がとらえられていた。つぎの瞬間にはドームの外へ駆けだして「まちがいない, 写っている!」と大声でさげんでいた。このあと, 観測所の電話と FAX はつながりっぱなし, データは大急ぎで処理されてプレス・リリースされる。インタビューやコメントを求められたり, こんなに大騒ぎの観測は生まれて初めてだ。もう少しで見逃してしまうところだった彗星衝突のインパクトが身に染みた夜だった。

関口 和寛 (南アフリカ天文台)

SL9 fragment A impact from SAAO

Kazuhiro SEKIGUCHI

Southern African Astronomical Observatory